

第90回 医学教育セミナーとワークショップ

2025年1月23日(木)・24日(金) Web開催

参加登録期間 2024年12月2日(月)～12日(木) [事前登録制]

Seminar

1/24(金)
16:30-18:00

科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論 TL

藤崎和彦(MEDC)

MEDTaaalk

1/24(金)
12:00-15:50

MEDTaaalk1 12:00-12:50 R

カンファレンスの観察社会学 -個別指導と全体的教育の二律背反等を事例として

プレゼンター: 櫻田美雄(摂南大学) ナビゲーター: 今福輪太郎(MEDC)

MEDTaaalk2 13:00-13:50 R

コミュニケーションを測ること、評価すること

プレゼンター: 石川ひろの(帝京大学) ナビゲーター: 野村 理(MEDC)

MEDTaaalk3 14:00-14:50 ML

医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう

プレゼンター: 灘光洋子(立教大学) ナビゲーター: 早川佳穂(MEDC)

MEDTaaalk4 15:00-15:50 ML

臨床研究コーディネーター(Clinical Research Coordinator : CRC)のレジリエンス

プレゼンター: 野呂幾久子(東京慈恵会医科大学) ナビゲーター: 高橋美裕希(岐阜大学)

Workshop

1/23(木)
9:00-12:00

WS-1 効率よく臨床医学を学ぶカリキュラムの構築 ~もっと臨床を Mehr Übung~

CD 泉 美貴・大城剛志・古田厚子・後藤理英子・鈴木慎太郎・眞鍋 亮(昭和大学)

WS-2 Narrativeを活かした学習者支援 -フィードバックからメンタリングまで-

A 宮地純一郎(名古屋大学/北海道家庭医療学センター)加藤光樹(まどかファミリークリニック/北海道家庭医療学センター)木村武司(名古屋大学医学部附属病院)

Workshop

1/23(木)
13:00-16:00

WS-3 キャリアデザインシミュレーション ビヨンド! ~系統的キャリア教育を考えてみませんか~

CD 駒澤伸泰・横平政直(香川大学)内藤知佐子(愛媛大学)西田憲生(徳島大学)西屋克己(関西医科大学)安田真之(香川大学医学部附属病院)

WS-4 歯学教育における災害歯科保健教育の方向性とあり方を考えよう

TL 中久木康一(東北大学)岡 広子(広島大学)熊谷章子(岩手医科大学)高田正典(日本歯科大学)久保田潤平(九州歯科大学)

Workshop

1/24(金)
9:00-12:00

WS-5 対話型鑑賞で支える多職種連携 -話し上手でなくてもいい、医療者として必要な対話力を身につけるために-

ML 森永康平(獨協医科大学)西川真那(倉敷中央病院)藤田雅子(亀田総合病院)高柿有里(大阪医療福祉専門学校)早野駿佑(埼玉県立小児医療センター)太田雄馬(東京医療保健大学)

WS-6 障害のある医療系学生の社会的バリアを考える ~聴覚障害を例に~

ML 瀬戸山陽子(東京医科大学)田中邦彦(元長崎大学)Peter Bernick(長崎大学)青木昭子(新生病院)川上ちひろ(MEDC)堀田 亮(岐阜大学・MEDC)

第91回
東京

第26回教務事務職員研修
2025/5/29-31

第92回
鹿児島大

2025/11/27-28

第93回
調整中

第27回教務事務職員研修
2026春 予定



医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター

〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
TEL:058-230-6470 FAX:058-230-6468
E-mail:medc@t.gifu-u.ac.jp

MEDC

検索



科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論

藤崎和彦 (MEDC)

概要： 1985年に医学教育を学ぶために当時、日本医学教育学会の副会長だった大阪大学の中川米造先生の大学院生になったのだが、中川先生の教室はもともと、我が国初の医学概論講座を作られ、戦後大ブームとなった医学概論3部作の著者、澤瀉久敬先生の後を継ぐ研究室で、澤瀉先生のもとで助手をされていた中川先生が二代目として指導をされていた。中学高校時代から科学史・科学論（特にクーンのパラダイム論）に関心を持っていた藤崎は、医学生時代に医学史・医学概論とをどう繋げるかについても関心があり、それも中川研で勉強しようと思った一要因であった。2012年から岐阜大学の全学共通教育で、人文科学・科学論の授業15コマを担当するようになって自分なりに纏めたもののエッセンス部分を本セミナーではお話ししたい。

アソシエイトポイント：TL 0.125

MEDTaaalk 1月24日(金) 12:00-15:50

概要： MEDTaaalk 1 12:00-12:50

カンファレンスの観察社会学 -個別指導と全体的教育の二律背反等を事例として-

プレゼンター：榎田美雄 (摂南大学) ナビゲーター：今福輪太郎 (MEDC)

(診療科の朝の)カンファレンスには、多様な参加者が多様な目的で参加しています。そうすると、どうしても「あちら立てれば、こちら立たずの状況」が発生してしまいます。そもそも、参加者の基礎知識が違いますし、文化的背景も違います。若手に気を遣って、丁寧に説明していると、時間が掛かりすぎます。逆に、判断の難しいケースに関して、高速で意見交換をしていると、置いてけぼりになってしまう参加者が出ます。どうしたらいいのでしょうか？しかし、このMEDTaaalkは、「研究者が解決策を教示する」上から目線企画ではありません。じつは、<現場>では、そういう困難な状況に合わせて沢山の実践的工夫がされているんです。その工夫を自覚できるように、自覚したうえで、少しの修正や少しの応用が出来るようにする当事者目線企画です。紹介する事例は、個別指導をしていたはずなのに、それがなぜか全体的教育にもなっていたというものですが、単なる誘い水です。同じようなことが各地で毎朝沢山起きているはずですよ。それを持ち寄り報告しあいましょう。

MEDTaaalk 2 13:00-13:50

コミュニケーションを測ること、評価すること

プレゼンター：石川ひろの (帝京大学) ナビゲーター：野村 理 (MEDC)

医療におけるコミュニケーションの重要性やその教育の必要性について、ほとんど異議を挟まれることがなくなったのはこの30年ほどの大きな変化であると思います。医療コミュニケーションの実証研究は、その流れを作り、サポートするさまざまな根拠をつくってきました。とりわけ量的な研究では、コミュニケーションと健康アウトカムとの関連を統計学的に示すことが試みられてきました。たとえば、患者中心のコミュニケーション、共同意思決定 (Shared decision making: SDM) のようなコミュニケーション教育の中心に置かれてきた概念を、医療コミュニケーション研究がどう捉え、測定してきたのか、それがどのように教育や実践につながってきたのか、これからの課題も含めて考えてみたいと思います。

MEDTaaalk 3 14:00-14:50

医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう

プレゼンター：灘光洋子 (立教大学) ナビゲーター：早川佳穂 (MEDC)

「文化」が「異なる」(と感じる)相手との「コミュニケーション」とはどのような現象なのだろうか。人と人とのコミュニケーションは様々な要素が絡む複雑な意味の相互作用と言って良いが、互いを理解するための共有基盤が脆弱な場合、そのプロセスで違和感やざらつき、驚きを覚える可能性は高い。立場や視点の違い、権力格差、アイデンティティの交渉などが絡む医療者と患者のコミュニケーションには異文化コミュニケーションの要素が垣間見えるように思われるのだが、どうだろう。このセッションでは、異文化コミュニケーション論で馴染みの深い概念、モデル、理論を用いて医療者と患者のやり取りについて考える機会としたい。

概要： MEDTaaalk4 15:00-15:50

臨床研究コーディネーター(Clinical Research Coordinator : CRC)のレジリエンス

プレゼンター：野呂幾久子（東京慈恵会医科大学） ナビゲーター：高橋美裕希（岐阜大学）

疾病の予防や早期診断、早期治療に対する国民の期待は高く、厚生労働省は新しい医薬品の研究開発を推進している。そのキーパーソンとなるのが臨床研究コーディネーター（Clinical Research Coordinator : CRC）である。CRCの業務は被験者ケア、医師への支援、依頼者への対応、関係者のコーディネーションなど多岐にわたり、また対人関係スキルと同時に臨床研究に関する高い専門性が求められることから、ストレス、不安、緊張といった精神的負担を感じる人が多いと言われている。しかし、そのような中でも、職務にやりがいを感じて継続しているCRCもいる。そこに関与しているレジリエンス（resilience）の力とは、どのような力なのだろうか。本ワークショップでは、CRCのレジリエンスを入口に、医療従事者のレジリエンスや、それを育成するための教育について考えてみたい。

アソシエイトポイント：R 0.25

WS-1 1月23日(木) 9:00-12:00

効率よく臨床医学を学ぶカリキュラムの構築 ～もっと臨床を Mehr Übung～

泉 美貴・大城剛志・古田厚子・後藤理英子・鈴木慎太郎・眞鍋 亮（昭和大学）

概要： 従来、医学部の授業は講義に次ぐ講義、そしてペーパーテストの繰り返しで構成されてきた。定期試験や医師国家試験の対策に明け暮れ、臨床の重要性を知る機会が少なくなってしまうのは医学部の学生としては大きな損失である。医学部入学直後から低学年のうちに診療現場に触れ、医師としての役割、使命、存在感を体感することはとても重要なことだ。昭和大学ではmedical practiceの実践を大切にしており、それをいかに早期に、より多く経験してもらえるように新カリキュラムに盛り込んできた。一方で、臨床医学は基礎医学に裏打ちされており、その両者を統合して学修する機会を創出することで、単純に病名を当てたり検査結果を推察したりすることのみに終始しない医師を養成するよう統合教育の推進を心がけている。「もっと光を」とされるゲートの真の最後の言葉はこうだ『窓をもうひとつ開けてくれ、明かりがもっと這入るように』。医学部生にもっと臨床を！本企画で学修すること：①臨床医学に低学年、入学早期から親しめるカリキュラムをいかにして構築するのか、②Medical Practice、Medical Artを効率よく診療参加型実習前までに学修するカリキュラムをいかにして構築するのか、③イノベティブな発想を医学部のカリキュラムに注入するためのグループワーク。

対象： 座学一辺倒だったカリキュラムからの脱却を目指している医学部教職員（医師、教員、学務課職員など）、とくにアクティブラーニング導入に苦慮している医療系教職員ならどなたでも（医学部以外でも）

定員：30名

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-2 1月23日(木) 9:00-12:00

Narrativeを活かした学習者支援 -フィードバックからメンタリングまで-

宮地純一郎（名古屋大学／北海道家庭医療学センター）加藤光樹（まどかファミリークリニック／北海道家庭医療学センター）木村武司（名古屋大学医学部附属病院）

概要： 臨床現場における多様な経験をどのように振り返り、意味付けていくかは、学生や医療職が成長する上での中核を為すといっても過言ではない。臨床参加型実習・地域医療実習・外来研修必修化のように、学習者の現場経験に対して、対面あるいは遠隔で教員がフィードバックやメンタリングのような対話を通して意味づけに関わる機会は今後増すと考えられる。しかし、対話を通じて医療的知識や技術習得以上の深い側面に焦点を当てるやり方に、教員が触れる機会は多くはないと予想される。

こうした現状をふまえ、本ワークショップは、フィードバックとナラティブの理論の講義および、ナラティブの視座を対話に取り入れるConversations Inviting Change(CIC)と呼ばれる、John Launer氏が開発したアプローチの体験・実践を通じて、参加者が理論・実践の両面から学習者との対話を多層的に学び、一步厚みのあるアプローチを見出す機会を提供する予定である。

（※なお、本ワークショップは、名古屋大学・岐阜大学によるポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業を兼ねて開催し、ご参加頂いた皆様にはアンケートやワークショップを受けた後の経験についてのインタビューをお願いする可能性があります。）

対象： 現場・遠隔で先輩・同僚・新人などのメンタリング・フィードバックに関わる機会のある方（職種や所属は問いません）

定員：24名

アソシエイトポイント：A 0.25

キャリアデザインシミュレーション ビヨンド！～系統的キャリア教育を考えてみませんか～

駒澤伸泰・横平政直（香川大学）内藤知佐子（愛媛大学）西田憲生（徳島大学）西屋克己（関西医科大学）安田真之（香川大学医学部附属病院）

概要： 医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「医師として求められる基本的な資質・能力」の一つとして、生涯にわたる自律的な学習と、他の医療専門家との共同研鑽が重要とされています。また、このカリキュラムには安全で質の高い医療を提供するための省察と教育への積極的な参加も含まれます。さらに、キャリア開発についても言及されていますが、系統的なキャリアデザインプログラムはまだ限られている印象です。現代の医学生たちは、データ駆動型社会の中で、予測困難な医療の未来を担うこととなります。このため、医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、医師としての多様なキャリアパスを考慮することが求められています。卒前からの系統的なキャリアデザイン教育は、医学生の自己調整学習能力を高め、生涯学習の推進に寄与する可能性があります。このワークショップでは、参加者間で系統的キャリアデザインプログラム案を作成し、ディスカッションを重ねることでカリキュラム作成能力の向上を試みます。

昨年度は、キャリアデザインシミュレーションを「学修者」役で体験いただきましたが、今回は、「キャリアデザインシミュレーション ビヨンド」として、卒前の「系統的キャリアデザイン教育カリキュラム」を「教育者」側で構築いただこうと思います。医学科以外にも対応しておりますので幅広いご参加をお待ちしております。昨年度の資料やまとめも共有しますので、初めての方のご参加も歓迎致します。

対象： キャリア教育に興味がある医療系教育者

定員：35名
アソシエイトポイント：CD 0.25

歯学教育における災害歯科保健教育の方向性とあり方を考えよう

中久木康一（東北大学）岡 広子（広島大学）熊谷章子（岩手医科大学）高田正典（日本歯科大学）久保田潤平（九州歯科大学）

概要： 災害時には、保健医療福祉支援の連携の中に歯科保健医療支援が位置付けられ、多職種で協働する体制と統一されてきている。一方で、歯科における教育の指針は明らかとなっていない。本ワークショップにおいては、参加者それぞれが自身の所属機関で実際に実施しているカリキュラムや取り組みについて共有した上で意見交換を行う。これからの歯学教育における災害歯科保健教育の具備すべき項目など、特に多職種での連携についても意識した内容をまとめ、その教育がどのような形式や方法で行われるべきなのかを検討し、これからの教育のあり方として提示したい。

対象： 災害歯科保健医療教育に関心がある教育関係者（職種問わず）

定員：30名
アソシエイトポイント：TL 0.25

対話型鑑賞で支える多職種連携 -話し上手でなくてもいい、医療者として必要な対話力を身につけるために-

森永康平（獨協医科大学）西川真那（倉敷中央病院）藤田雅子（亀田総合病院）高柿有里（大阪医療福祉専門学校）早野駿佑（埼玉県立小児医療センター）太田雄馬（東京医療保健大学）

概要：対話型鑑賞はアート作品を観察しながら「見たことや気づいたことを根拠を示しながら言語化し、対話しながら鑑賞を深める」ことを中心とした鑑賞手法であり、国内外の医学教育にも取り入れられてきた。現在、多職種連携が医療現場を支える不可欠な要素であることに疑いの余地はないが、円滑で効率的なコミュニケーションを支えるために「どこ（事実）からそう（解釈）したという明確な論理構築や情報の吟味」や「チームメンバーの視点や使用する言葉の違いを受け入れる柔軟性」などが必要であることは以前から言われてきた。抜本的な解決手段が見つからないこれらの問題は、対話型鑑賞を通じて培うことが期待できる能力や姿勢の一部分に対応しており、実際に多職種連携やチームビルディングにおいて協調的な能力につながる有用性についての報告も示され始めている。今回のワークショップでは、対話型鑑賞を実際に体験する中で、普段の多職種連携の実情や課題を振り返り、アップデートするための活用法についてともに議論したい。

対象：職種の制限はなく興味を持ってくださった方ならどなたでも（アートの知識は不要）

定員：20名

アソシエイトポイント：ML 0.25

障害のある医療系学生の社会的バリアを考える ～聴覚障害を例に～

瀬戸山陽子（東京医科大学）田中邦彦（元長崎大学）Peter Bernick（長崎大学）青木昭子（新生病院）川上ちひろ（MEDC）堀田 亮（岐阜大学・MEDC）

概要：2024年3月の文科省による「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第三次まとめ）」で大学が理解すべきとされた「障害の社会モデル」の考え方では、障害のない学生を前提として構築された大学等の仕組みが障害のある学生にとってのバリアになっているとされる。このバリアは「社会的障壁」と呼ばれ、障害がある者の日常生活及び社会生活を難しくさせる物理的な環境や制度、ルール、考え方が含まれる。医学教育でも既存の環境や制度が障害のある人の学びを妨げていないか見直すことが求められてきた。

本ワークショップでは、CBTやOSCEの共用試験の合理的配慮申請件数が肢体不自由全体について多く、かつ外から気づきにくい障害である聴覚障害のある学生を例に、医学教育の在り方を検討する。社会モデルの考えを基礎に、障害の有無にかかわらず学べるインクルーシブな医学教育構築に向け何をどのようにしたら良いか、考える機会としたい。

対象：医療系の障害学生支援に関心のある方どなたでも

定員：50名

アソシエイトポイント：ML 0.25



参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください
「MEDC」で簡単検索できます

参加登録期間：2024年12月2日(月)～12日(木)

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。
各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受付いたしません。

参加費： 2,000円
(学部学生、東海国立大学機構 教職員・大学院生 無料)

開催方法： Web開催(Zoom)